

新 関西談 笑

日本初の学部はすでに「日本一」 次は「世界一」しかないでしょ。

かな。

—— 関大は、スケートの高橋大輔選手や織田信成選手とかは、世界に通用してますけど

河田 経営上の戦略もあるから、悪いとはいわれないが、大学って学問研究するところですよ。「頭も筋肉と一緒に」とは学生にいうんだけれどね。

—— …。「頭が筋肉」というと、肉体派のことをいいますが(笑)

河田 頭もトレーニングしないとダメだということ。今の学生をみてみると、考える体力が全くない。答えが容易にでないことを考える訓練をしていない。だから「頭のジョギングしなさい」というんだ。インターネット頼りだから必要なことを断片的にしか知ることができない。だからもっと新聞を読みなさいといっている。大学の新聞用ゴミ箱はいつも空やからね。

—— 必要なら言ってくたさい。いつでも届けますから(笑)

もそも、日本でほかの大学ではやってないことを始めようというわけでしょ。そして、すでに日本一なんだから(笑)、次は世界一しかないでしょ。関大といえは「関関同立」というくらいかたをすくするけれど、それはおかしいよ。

—— 関関同立はともかく世界に抜け出すなんて本当に可能でしょうか

河田 僕はこれまで京大で世界の災害現場をめぐり、海外の研究者を相手にしてきたから、「大学」を名乗る以上、それが当たり前前と思っているし、不可能

ではないと思うからというのであって、ホラ吹いているわけではない。

だいたい関大は今日や昨日できた大学でなく、100年以上の歴史があるわけだから、十分世界に伍する力をもつ資格はあるという自覚をもつべきではないの

「安全・安心」な社会形成に貢献できる人材を育てようと、今年4月、関西大学に社会安全学部が設置された。学部長には、災害研究の第一人者、河田恵昭・前京大防災研究所長が着任し、世界でも珍しい社会安全学に取り組み。河田学部長は「社会の危機管理には真のエリート育成が必要。そのために、世界のハーバード大学を目指す」とぶちあげる。東大、京大を追い抜くのが10年後、30年でハーバードにというが、果たして…。

(聞き手 北村理)

—— ハーバードといえは今年マイケル・サンデル先生の「白熱教室」が話題になりましたが、どうしてまた、関大を「ハーバードに」と言い出したのですか

河田 学部まで設置して危機管理を学ぶという、そ

関西大学社会安全学部長 河田 恵昭さん



(渡守麻衣撮影)

かわた・よしあき 昭和21年、大阪市生まれ。京大工学博士、フルブライト上級研究員(米プリンストン大学)、京大防災研所長、中央防災会議や各省庁、自治体の委員を歴任。現在、人と防災未来センター(神戸市)センター長。

国連SASAKAWA防災賞、防災功労者内閣総理大臣表彰。著書に「リスク学事典」(共著、阪急コミュニケーションズ)、「これからの防災・減災がわかる本」(岩波ジュニア新書)、「津波災害」(岩波新書)など。